

秋になることを伝えたくて

菅井真美

青森県・三一・家事手伝い

夕方の風が肌に涼しく、日の傾くのも日増しに早くなっているようで、今年も秋の訪れを感じる頃となりました。

道を歩いていましたら、風に吹かれたトンボが一匹ゆらりゆらりと私の前を往復するので、手を差しのべたところ、そっと私の手の甲に止まりそのまま羽を休めました。トンボの羽は薄く、くたびれているような様子さまに、さぞ飛び回ったであろう夏の疲れを見るようで、ふっと笑いがこみ上げました。再びトンボが私の手を放れるまでしばらく一緒に歩きました。

何だか今日はこのことが嬉しくて、学さんに夏が終ったこと、秋になるということを伝えたいと思いました。きっとあなたの住む横浜よりも、私のいる青森の方が先に秋がやって来るでしょうから……。それとも季節の変化に敏感なあなたは、もう秋の気配を感じているのでしょうか。

今年いっぱい実家の仙台に帰られるあなたは、大好きな街・横浜を離れるまでの残りわずかな日々をどんな思いで過ごしていることでしょう。都会で暮らした歲月、また都会で迎える最後の季節、感慨深いものがあるでしょうね。

私はあなたの良きパートナーとして傍で暮せる日を待ち遠しく思い、はやる気持ちもあります。でも焦らず与えられた日々をできるだけ大事にしたいです。多くの人と出会い、話したり、考えたり、いろんなことを吸収して、挑戦してみ、毎日毎日新しい自分でありたいと思っています。

あなたもこれまで得られたさまざまな経験や思いが、仙台に帰ってからの夢につながり、生かされて行きますように応援しています。

遠くからではありますが、お互いにいつもメールを送り合う二人でありたいですね。一日の終わりにそう思います。

それでは学さん、お体を大切に。
またお便り致します。